

# 平成 27 年度 教育懇談会 グループ懇談要旨

## 1 学力・学習状況の向上に向けた保護者と学校の役割について<考えられる取組・対応>

### ◎子ども・保護者・学校の現状

- 中学生ともなると勉強を親が子どもに教えられない。
- 家庭学習をしっかりとやってほしいという学校からの声かけを受けて、やろうという思いはあるが、家庭学習を一緒にやれていない状況。
- 子どもの勉強について、学校でどのぐらい進んでいるのか把握できていない。
- テスト等の直しについて、漢字の間違いを直したりするのは家庭で復習しやすいが、テストの復習を家でやるのは難しい。
- 子どもは家と学校で違う顔を持っていて、親は子どもの「家の顔」しか見ていないし、学校は子どもの「学校の顔」しか見ていない。
- すごく熱心な保護者、できるご家庭、都内だと共働き多く、家庭で差が出来てしまっている。
- 学校側でも土曜授業等で取組もうとしているが、参加する保護者が少なく苦慮しているという話も聞いている。
- スマホ・ゲームの時間が長い。
- 学校と家庭の距離遠い。
- 学校の情報が発信されていないのではないかな。
- 教育委員会・学校からの発信が弱い。アクティブラーニングの周知ができていないので、学校公開で見るグループ学習を保護者があまり理解していない現状がある。
- フィードバックの活用があまり周知されていない。
- 保護者が考えている勉強のゴールと、今の教育のゴールに違いがある。そこを共有しないと、一緒に一歩目踏み出したときに違う方向を向いてしまうことがあるのではないかと感じた。
- 家での親子の話し言葉が日々の言葉遣いにつながっているのではないかな。
- 家族における取組では、ほめ方の工夫をしている。
- 体力向上の取組として朝マラソンをやっている学校がある。
- 学校で何をしているか親のところまで伝わってこない
- 子どもの学習に関わりたいが、子どもがどんなことをしているのか、どんなことを学んでいるのかよく見えていない現状がある。特に男親は女の子の関わり方がわからない。
- 読書について、例えば読書カード使うとか、読み聞かせを保護者が学校でやっているというのは非常に良い取組である。
- 家庭科図工等先生一人では見てあげられない環境の際に、お手伝いを募って保護者も一緒に授業を受ける機会ある。自分の子以外にも他の子どもの様子がわかり、様々なふくらみのある取組だと思う。
- 宿題の多様化というところで、新学習指導要領にあった宿題がでていないのかわからない。

### ◎学力・学習状況の向上に向けた保護者と学校の取組

- 保護者が先生に協力できると良い。
- 先生の雑務等教員でなくてもできそうなことを保護者・PTA・役員が率先して協力できると良い。
- 連絡帳等を学校で出してくれているが、より把握しやすい何かを学校側から出してもらいたい。
- こういった教育懇談会には、学校から1~2名しか出てきていないが、こういった場が学校の中で全体の保護者に向け開催できれば、保護者全体の意識が高まって家庭学習につながるのではないかな。
- 学校と家庭のお互いが距離を近づけるようにしていくと良い。

- 学校の先生によって、取り決めが違っていたりするので、そういった関係づくりもできるように、例えば保護者が先生を褒めたり、学校と保護者とのかかわりや学校と先生とのかかわりを密にしていければ良い。
- 学び続ける環境を整えるという点で、早寝早起き、生活リズムやあいさつをする等は家庭環境が非常に大事になってくる。親の生活に子どもをあわせている状況ある。習慣づけるためにも親もしっかりしなければいけない。
- 目標を明確にして生きる。明確な目標を持たせて一緒にがんばる必要がある。
- 子どもが先生以外の大人と話す機会をつくる。
- 現在の保護者会は、学校の連絡事項で終わっていて参加率悪く、メールで流せばいい状況にある。このような懇談会を学校の保護者会でもできれば、相互のコミュニケーションが図られ、信頼関係を築くことができるのではないか。
- こんな宿題がでていたりとか、プリントを配っているとか、今学校で何をやっているか等、ホームページ等様々な方法で伝えていく必要がある。
- 宿題について充実してほしい。
- 家で学校の話をする時間をつくる。そのためには、生活リズムを整える必要があるが、共働きの家庭が多い中で難しいのではないか。
- 子どもは家と学校で違う顔を持っていて、お互いに知らない顔を親と学校が情報共有してさらけ出していけばいいのではないか。さらけ出す環境があると、悪いこともオブラートに包む必要がなくなり、色々なことが、いい方向に早く向かうのではないか。
- 学習のゴール、具体的には、普段の授業や学校公開の時に、この授業はこういう狙いがあるって、こういうことをするためにこんなことしますという事前の説明があると良い。親としても自分の子どもばかり見ないで、学習の内容やクラス全体の雰囲気が目が届いて、学校公開に見応えがでる。
- 学校公開は、サッカーの中継である。親は熱狂的なサポーター。自分の子どもが活躍するかしか見ていない。でも、事前に特集番組を見ると、このチームがどんなことをしていて、見所がここにあるって、ここがあったからあのプレーが活きたんだということが分かってくる。情報共有の話だが、あらかじめ知っている状態で学校公開に行くと、今学校が狙っている教育がよく分かるし、保護者からも意見がでるのではないか。
- 基礎学力を上げることは重要であるが、点数をあげることだけが重要なのか。生き抜く力が必要なのではないか。
- やる気スイッチがどこか。子どものシグナルや輝きを親が見逃さないようにしていかなければいけない。
- 何故親は子どもに口うるさく言うってしまうのか。これには、必ず理由があることなので、しっかり踏まえた中で、子どもたちと向き合う必要がある。
- これからの子どもたちに求められる理論的思考の向上、これを小学校の頃から身につけていかなければいけないのではないか。人から言われたことを鵜呑みにしてしまう人間では、これから生き残っていくのは非常に難しくなるのではないか。
- 読書は、ハードルが低く、誰でも文字は読める。そこから突破口を見出して、これを親から発信していくことが必要なのではないか。
- オール板橋共通で何かテーマを挙げられることがいいのではないかということで、例えば、夕焼けチャイムの時間までに家に帰るとというのが今オール板橋でできている活動で、教育に関しても、みんなが同じ認識を持って子どもの教育にあたる必要があるのではないか。
- 大人同士、子ども同士のコミュニケーションを、スマホ等のデジタル媒体ではなく、アナログコミュニケーションを中心として、その中で学力が育まれていくのではないか。
- 家庭でテレビを観ながら意見を言い合う。例えば、ニュース番組であったり、クイズ番組で誰が最初に当てたみたいなこと、そういったことが実は学力向上につながっているのではないか。

- 学力学習向上に必要な最大のテーマは、あたりまえの基本的な生活もそうだが、土台の部分が非常に重要で、人としての土台を各家庭・学校で育む必要がある。その中で、人としての土台を身につけてもらうことが重要なのではないか。その時に必要なのは、ただ子どもの土台をつくるだけではなく、先生方の土台、親の土台が子どもの土台作りにつながることを意識する必要がある。
- 親・子ども・先生がルールを守り、約束を守ること、そういったことが自立した人間になるということにつながるのではないか。
- 最終的に目的志向を親・先生・子どもがそれぞれ持っている。また、それを踏まえて家庭生活を行い、学校が運営されていくということが非常に重要なのではないか。
- 学校と保護者の連携ということで、生徒と教員間でノートを作って、疑問点を持ちこさないようにしたらどうか。
- 時代物のドラマや映画を見て、自分が主人公だったらどうするかを話し合ってみるとか、ニュースを見てどう思うかを話し合ってみるとか、日常流れているテレビや新聞の情報を子どもたちと共有したらどうか。
- 親が子どもと一緒に本を読むことが大切である。
- 子どものやる気スイッチをどう入れるかということになるが、やる気スイッチも単純に子どもを褒めるだけでは変なスイッチを入れかねない。子どもの興味にどこまで寄り添っていけるかである。
- ゲームをするときに文字がでてくるので、必ず声に出して音読しなさいと言っている。そうすることで、スムーズに文章が読めるようになった。
- 子どもの興味が、親からするとダメだと思ってしまうものであったら、それをどうやって勉強に結び付けていくことを考えていくのが一つの方法ではないか。
- 努力の貯金。ポイント制にして、何かいいことをやったらポイントが貯まるようにする。
- 小学校は、続ける習慣が必要。
- 学校では、公文のようなスモールステップ、成功体験を導入することができるのではないか。
- 中学では、部活動の兼ね合いもあるが、出来ない子への補習・フォローが必要なのではないか。
- モチベーションアップが必要になるので、巻き込むことが必要なのではないか。
- 中学でも宿題を出すところが増えてきたが、一律の宿題ではなく、適正に応じたある程度の分類の宿題を出すことで、出来る・出来ないというのをフォローできればと思う
- 何をやるにしても目的を話すことを基本に置かなければいけない。
- 保護者を含めた生活の見直しが必要で、我々が見本になれることが必要ではないか。それに伴ってコミュニケーションの質の向上があって、子どもたちが伝える能力が高まるのではないか。
- 子どもが勉強する時間、遊ぶ時間というのをきちんと決めさせることによって、子ども自身が集中する時間を作るべきではないか。
- 親が手伝えるような、子どもに関われるような宿題があってもいいのではないか。

## 2 学校、教育委員会に期待すること

- 先生は学力指導に専念してほしい。
- 保護者ひとりひとりが、家庭学習の時間の大切さを考えられるような取組を学校側でしてもらいたい。
- 中学校だと部活で勉強の時間を作るのは難しいが、それでも宿題を出してほしい。
- 保護者が、子どもがやっている学習内容や宿題の内容がわかるようにしてほしい。
- 読書に関しては、小学校では図書室の利用の時間があるけれども、中学校ではないので、取り入れることはできないか。
- 社会にでて通用する子どもにしてほしい。
- 基礎を作してほしい。
- 学習指導方針を学年で同じにしてほしい。

- 先生に関して、人間なので間違えることもある。間違ったことを学びの場で活かしていけたら、もう少し広がりが出てくるのではないか。
- 一人ぼっちの親や子に対して小学校で取り組んでいるところあるようで、学びの楽しさを生活の中で引き出してあげれば良いのではないか。
- 授業について、学校の授業に保護者が関われる機会を作ってはどうか。
- 参加しない保護者がいるという意見があったが、何をやっても参加しない保護者はいる。そういった中で子どもたちを助けてあげられるのは、他人の大人の目。地域として、大人として子どもの教育や育ちに関わる関係の持ち方ができればいい。
- 子どもたちが興味を示すような種を撒いてほしい。
- きれいな教室、きれいな環境、そこから一歩踏み出せるような環境作りをお願いしたい。
- フィードバック学習の活用もやってもらいたい。
- 教育懇談会に出席して、気付きがあった。この気付きを家に帰ってから実行してもらえればここに集まった甲斐があるし、明日から学校も変わるのではないか。
- 発信不足を解消してもらいたい。
- 各種検定費用を補助してほしい。
- 保護者がもっと学校に関わるように、学校も働きかけてほしい。
- 学習の進度、学年でそろえてほしい。先生によってばらつきがある。宿題の量や教え方を平準化してほしい。
- 先生同士のコミュニケーションをもっと取ってもらいたい。
- ICT 機器が普及するが、勉強に使うだけではなく、連絡ノート等、学校と家庭のツールにも使って、集計・分類・統計につながるような活用があるといい。
- 先生の負担が多いのではないか。
- 先生格差があるのではないか。
- 遊び場が減ってきているところから、児童館を使いづらくなっている小学生・中学生がいると思う。もう少し何か手法がないのか。
- 伝える手法をもっと関連を持っていかなければいけないと思う。
- 科目によって子どもの興味にばらつきがある。興味のない科目に見向きもしない子もいる。先生によって子どもの態度も変わる。興味の持てる授業をしてほしい。
- アメリカでは、親がテストの丸付けに始まって、授業で使う道具等も用意する。そのために先生の負担が少ない。
- 学校のウェブサイトの更新を頻繁にしてほしい。
- お手紙の類や、今日の宿題はこれですよというようなことをウェブサイトやメール等で配信してくれるといい。

### 3 その他

- 教員の休職多い。生徒の不登校も多い。それによって授業ができず、学力が低下する。早期対応をできるようなシステムを作ってもらいたい。
- 親以外の大人や地域の方が叱ったり褒めたりすることも必要だと思う。そのためには、学校開放やおやじの会が一つのキーになってくると思う。
- 叱るより褒めちぎることを優先。
- 教員間、親と教員間、親と子ども間等、コミュニケーションの質が低い。この質が上がっていくと全体の質が上がっていく。家庭に帰っても親と話す時間がないことが、学力の低下につながっているのではないかと思う。コミュニケーションが大事。